



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年11月7日

上場会社名 コタ株式会社 上場取引所 東証プライム市場  
 コード番号 4923 URL <https://www.cota.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)小田 博英  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営企画部長 (氏名)山崎 正哉 TEL (0774) 44-4923  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の業績 (2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	3,384	△7.8	350	△53.1	361	△52.7	266	△50.4
2022年3月期第2四半期	3,671	27.7	747	127.1	764	124.5	537	128.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	11.25	—
2022年3月期第2四半期	23.15	23.09

(注) 当社は、2022年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行っております。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	11,759	9,361	79.6
2022年3月期	13,084	9,540	72.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 9,361百万円 2022年3月期 9,539百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2022年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行っております。

### 3. 2023年3月期の業績予想 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,113	4.9	2,156	0.2	2,271	4.3	1,568	12.5	66.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	27,218,730株	2022年3月期	27,218,730株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	3,539,725株	2022年3月期	3,530,618株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	23,682,043株	2022年3月期2Q	23,208,069株

(注) 当社は、2022年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行っております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が再拡大したものの、経済活動に持ち直しの動きがみられました。しかしながら、原油価格の高騰や急速な円安の進行等により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

美容業界におきましては、美容室経営の二極化が進んでおり、多くの美容室では来店客数の減少や客単価の伸び悩み等、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社におきましては「女性は髪からもっと美しくなれる」というコーポレートスローガンのもと、美容室でのカウンセリングを通じて、来店客に対して付加価値の高いヘアケア提案を行いました。特に、ヘアケアの基本であるシャンプー及びトリートメントの主力ブランドである「コタ アイ ケア」を中心に美容室での販売を推進することで、多くの「女性のキレイ」を髪から応援しております。また、創業精神である「美容業界の近代化」をベースに、独自のビジネスモデルである「トイレタリーの販売を中心とした店販戦略」と「旬報店システムを軸としたコンサルティング・セールス」を引き続き展開いたしました。コロナ禍におきましても、お取引先美容室に対して、対面とオンラインによる営業活動を通じて徹底的に寄り添い、業績向上に向けた提案や経営に関する支援を行いました。

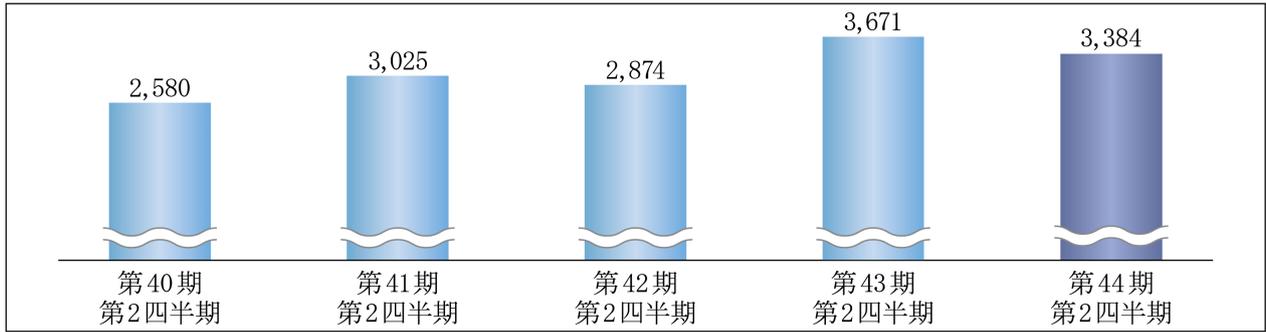
売上高につきましては、店販戦略の主力である「コタ アイ ケア」の販売は堅調に推移し、加えて2022年5月に発売した育毛剤「コタエイジング グロウセラム」や2022年9月に発売した整髪料「コタスタイリング ルミテックス」の販売も好調であったものの、前事業年度の5月に発売した「コタクチュール」の反動減があり、前年同四半期を下回りました。

また、売上原価につきましては、原材料費の上昇等がありましたが、引き続き原価管理の見直し等を行っていることから、売上原価率は前年同四半期を下回りました。販売費及び一般管理費につきましては、営業活動や物流に係る費用の増加、2022年6月に竣工した「COTA KYOTO Lab (研究開発施設)」に関連する費用を計上したことにより、前年同四半期を上回りました。特別利益につきましては、前事業年度において、特別損失に計上した「コタ アイ ケア」の一部ロットの自主回収に係る関連費用引当金の戻入益(32百万円)を計上しております。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は3,384百万円(前年同四半期比7.8%減)、営業利益は350百万円(前年同四半期比53.1%減)、経常利益は361百万円(前年同四半期比52.7%減)、四半期純利益は266百万円(前年同四半期比50.4%減)となりました。以下のグラフのとおり、第2四半期における業績は、コロナ禍の影響を大きく受けた第42期第2四半期や、トイレタリーのトップブランド「コタクチュール」を発売した第43期第2四半期等と比較して増減がありますが、当社は営業戦略上、売上高及び各利益の構成比率は下半期のウエイトが大きくなっており、通期に対する影響額は小さいものと判断しております。

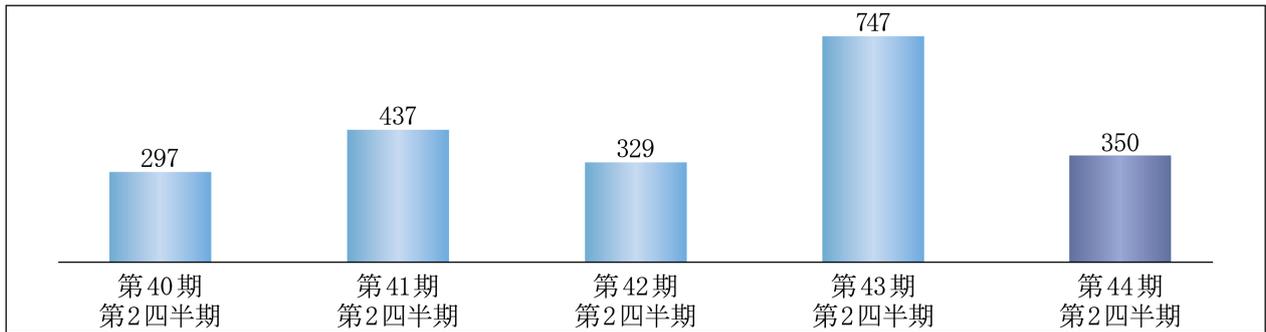
売上高

(単位:百万円)



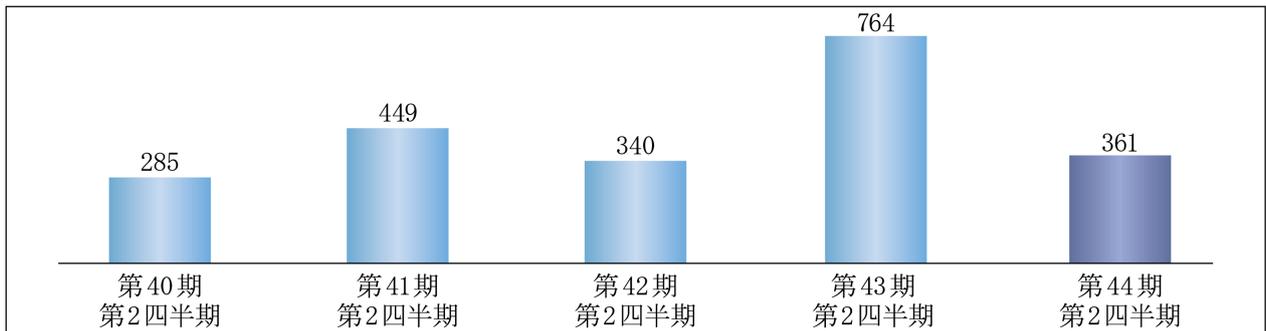
営業利益

(単位:百万円)



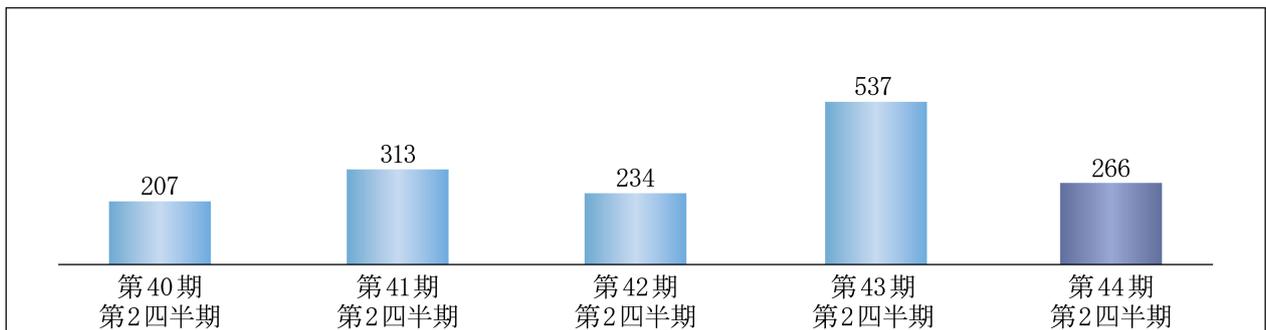
経常利益

(単位:百万円)



四半期純利益

(単位:百万円)



なお、当社は美容室向けの頭髪用化粧品及び医薬部外品の製造、販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の開示は行っておりませんが、売上高の内訳は、以下のとおりであります。

区分	前第2四半期累計期間		当第2四半期累計期間		増減額 (百万円)	増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		
トイレタリー	2,992	77.3	2,396	67.2	△596	△19.9
整髪料	513	13.3	622	17.5	109	21.4
カラー剤	152	3.9	144	4.0	△7	△4.8
育毛剤	92	2.4	288	8.1	195	210.7
パーマ剤	51	1.3	52	1.5	1	2.4
その他	69	1.8	59	1.7	△9	△14.2
小計	3,871	100.0	3,565	100.0	△306	△7.9
売上高控除	△200	—	△180	—	19	—
合計	3,671	—	3,384	—	△286	△7.8

当社は、2つのミッションである「世の中の美容室を一軒でも多く近代経営に導く」と「世の中の女性を一人でも多く髪から美しくする」を実現するために、トイレタリーの販売を中心とした「店販」を推進しながら、美容室の経営改善システムである「旬報店システム」を軸とした美容室の経営コンサルティング(コンサルティング・セールス)を展開することで、成長・繁栄につながるさまざまな提案を美容室に行っております。

そのため売上高に占めるトイレタリーの割合は、同業他社に比べ高いことが特徴であります。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (総資産)

当第2四半期会計期間の総資産は、前事業年度から1,325百万円減少し、11,759百万円となりました。

主な要因としては、有形固定資産が470百万円、商品及び製品が355百万円増加し、現金及び預金が1,590百万円、受取手形及び売掛金が780百万円減少したことによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間の負債は、前事業年度から1,146百万円減少し、2,398百万円となりました。

主な要因としては、未払金が660百万円、未払法人税等が428百万円減少したことによるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間の純資産は、前事業年度から178百万円減少し、9,361百万円となりました。

主な要因としては、利益剰余金が164百万円減少したことによるものであります。なお、自己資本比率は、79.6%(前事業年度72.9%)となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末より1,590百万円減少し、1,729百万円(前年同四半期比805百万円減)となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の減少は、402百万円(前年同四半期は456百万円の増加)となりました。

収入の主な要因としては、税引前四半期純利益394百万円及び売上債権の減少780百万円によるものであります。

支出の主な要因としては、棚卸資産の増加440百万円、法人税等の支払いによる支出442百万円及びその他の支出798百万円によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、744百万円(前年同四半期は420百万円の減少)となりました。

支出の主な要因としては、有形固定資産の取得による支出680百万円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、443百万円(前年同四半期は888百万円の減少)となりました。

支出の主な要因としては、配当金の支払いによる支出429百万円によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は営業戦略上、売上高及び各利益の構成比率は下半期のウエイトが大きくなっております。

当第2四半期累計期間におきましては、前事業年度の5月に発売した「コタクチュール」の反動減があったものの、店販戦略の主力である「コタ アイ ケア」の販売は堅調に推移しております。

第3四半期以降につきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるものの、美容業界の繁忙期と重なることに加え、11月から12月にかけて当社製品の販売コンクールである「コタ全国店販コンクール」を開催しており、「コタ アイ ケア」ならびに「コタクチュール」を中心としたトイレタリーの需要増加等を見込んでいることから、現時点において、2022年5月9日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,819,221	4,229,093
受取手形及び売掛金	1,401,009	620,156
有価証券	—	100,000
商品及び製品	847,935	1,203,333
仕掛品	50,425	61,299
原材料及び貯蔵品	398,388	473,031
その他	45,914	215,431
貸倒引当金	△23	△28
流動資産合計	8,562,872	6,902,317
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,345,512	2,331,393
土地	1,303,955	1,312,039
その他(純額)	937,548	414,408
有形固定資産合計	3,587,016	4,057,841
無形固定資産	65,866	92,125
投資その他の資産	869,238	707,538
固定資産合計	4,522,121	4,857,505
資産合計	13,084,993	11,759,822
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	170,299	188,408
未払金	858,627	197,964
未払法人税等	477,335	48,811
賞与引当金	256,370	256,237
役員賞与引当金	—	20,152
製品自主回収関連費用引当金	90,499	—
その他	453,852	389,088
流動負債合計	2,306,984	1,100,661
固定負債		
退職給付引当金	240,322	241,922
役員退職慰労引当金	629,441	664,706
資産除去債務	215,313	215,517
長期預り保証金	152,900	175,200
固定負債合計	1,237,976	1,297,346
負債合計	3,544,961	2,398,008
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	387,800	387,800
資本剰余金	642,346	642,350
利益剰余金	11,185,739	11,021,454
自己株式	△2,677,732	△2,691,023
株主資本合計	9,538,152	9,360,580
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,061	1,233
評価・換算差額等合計	1,061	1,233
新株予約権	818	—
純資産合計	9,540,032	9,361,814
負債純資産合計	13,084,993	11,759,822

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	3,671,288	3,384,603
売上原価	1,029,031	911,425
売上総利益	2,642,257	2,473,178
販売費及び一般管理費	1,894,970	2,123,029
営業利益	747,287	350,148
営業外収益		
受取利息	1,352	1,316
受取配当金	1,774	2,177
受取賃貸料	2,572	347
受取手数料	4,352	—
業務受託料	4,800	4,800
その他	6,084	5,450
営業外収益合計	20,936	14,092
営業外費用		
賃貸費用	745	—
固定資産除却損	1,408	2,380
その他	1,922	638
営業外費用合計	4,076	3,018
経常利益	764,147	361,222
特別利益		
製品自主回収関連費用引当金戻入額	—	32,830
特別利益合計	—	32,830
税引前四半期純利益	764,147	394,053
法人税、住民税及び事業税	262,365	29,449
法人税等調整額	△35,390	98,195
法人税等合計	226,975	127,645
四半期純利益	537,172	266,407

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	764,147	394,053
減価償却費	109,801	121,235
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△40	4
賞与引当金の増減額(△は減少)	6,137	△133
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	11,826	20,152
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,975	1,599
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	32,817	35,265
製品自主回収関連費用引当金の増減額(△は減少)	—	△90,499
受取利息及び受取配当金	△3,126	△3,494
売上債権の増減額(△は増加)	588,485	780,853
棚卸資産の増減額(△は増加)	△241,386	△440,913
仕入債務の増減額(△は減少)	10,841	18,108
その他	△428,627	△798,321
小計	854,850	37,910
利息及び配当金の受取額	2,152	2,415
法人税等の支払額	△400,478	△442,423
営業活動によるキャッシュ・フロー	456,524	△402,097
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△473,909	△680,237
無形固定資産の取得による支出	△11,459	△26,386
投資有価証券の償還による収入	50,000	—
差入保証金の回収による収入	15,041	20
その他	25	△38,162
投資活動によるキャッシュ・フロー	△420,302	△744,767
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△843,700	△13,296
自己株式の売却による収入	1	10
配当金の支払額	△353,139	△429,158
新株予約権の行使による株式の発行による収入	308,201	—
その他	—	△818
財務活動によるキャッシュ・フロー	△888,637	△443,263
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△852,415	△1,590,127
現金及び現金同等物の期首残高	3,387,279	3,319,221
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,534,863	1,729,093

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は美容室向けの頭髪用化粧品及び医薬部外品の製造、販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。